

歯科医学・医療からノーベル賞を！

国際歯科研究学会日本部会（JADR）

会長 高田 隆

この度は日本歯科医学会との合同シンポジウムにご参加いただき、まことにありがとうございます。会を開催するに当たり、ご高配を賜りました住友会長をはじめとする日本歯科医学会の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。また、日本の歯科医学を代表する日本歯科医学会と世界の歯科医学研究を牽引する国際歯科研究学会（IADR）の日本部会である Japanese Association for Dental Research（JADR）が合同でシンポジウムを開催させていただくことに望外の喜びを感じております。

さて、この度の合同シンポジウムを開催するにあたり、どのような内容にするかを、歯科医学会の井上 孝総務担当理事と JADR 上條竜太郎学術企画担当理事を中心に議論を重ねていただいた結果、本日の「歯学研究における重要な発見とその可能性 - 健康長寿への貢献からノーベル賞へ -」というテーマのシンポジウムにすることを合意に至りました。このテーマには、我が国の歯科医学・医療分野からノーベル賞受賞者を輩出したいという強いメッセージが込められています。シンポジウムでは、歯学をバックグラウンドとした3人のパネリストから、基礎研究から臨床研究へ、口腔から全身へと歯学研究の大いなる広がり人類への貢献についてお話をしていただきます。

ご参加の皆様、特に若い研究者の方々が本シンポジウムによって動機付けられ、健康長寿を支える歯科医療分野のご研究を通して、ノーベル賞への道を進んでいただければと思います。